

## マルセイユにて

中川 平介

留学先：アンドゥーム海洋研究所（マルセイユ）

Station Marine D'Endoume (Marseille)

留学期間：1978年10月～1979年10月

マルセイユに赴いたのは給費生の年齢制限ぎりぎりの35歳。週日は定刻5時に所属の海洋研究所をスタッフと共に退出した後は、週に1度、フランス人武術愛好者に頼まれて道場まで出かけて古武術の居合を教え、たまに柔道場に顔を出して子供相手に投げられ役を引き受けていた。血気盛んな若者は華麗な技を駆使することより腕力で相手をねじ伏せる面白味のない試合中心の柔道であったため、むきになって相手をして怪我でもしたら、との思いがあつてのことである。子供達は黒帯の柔道家を投げたことを結構喜んでいて。

さらに週に一度、旧港（写真）からそれほど離れていないアリアンスフランセーズにフランス語の勉強に通った。当初、受付のマダムから初級クラスは満席との理由で断られたが、それでも乏しいフランス語を駆使して「教室には全員が毎日来ていないでしょう」と頑張った。その結果、下から2番目のレベルの教室に編入が叶った。教室には30人弱の生徒がおり、アジア人は端正な顔立ちの大人しそうなカンボジア人男子学生、むっつりとして愛想のない若いラオス人女性に加え、幼い感じのベトナム人女性と私の4人であった。他に4、5人の騒がしいドイツ人女子学生グループ、欧州や北アフリカ出身の様々な年齢の男女がいた。

教室に入り、小柄で中学生のような幼い感じするアジア人女性の隣の席に着いた。たまたま二人の席が隣り合わせであったことと同じアジア人であったこともあり、年の離れたおじさんを相手に講義前のひと時、親近感をもって陽気に話しかけてきた。名をTitanというベトナム人で19歳とのこと。Titanは他の生徒とも馴染むこともなく、子供がするように、私の筆記具を取り上げて、はしゃぐなど、無邪気な悪戯を仕掛けてきた。「学生なの」との問いに「とんでもない」と言い、昼間はマルセイユの宝石の研磨工場働いている、と言いつつ荒れて黒ずんだ手のひらを私の目の前に差し出した。彼女はベトナムの南北統一後、一家揃って船でサイゴンを脱出しマルセイユに来たと云う。かつて、住んでいたサイゴンでは裕福な家庭で穏やかな生活を楽しんでいたようで、昔の生活を懐かしんで天井を仰ぎ「毎朝シャワーを浴びてから学校に行っていたのよ。楽しかったわ。でも今は何の楽しみもないわ——」と呟いた。若い盛りを遠い異国で生活のために働き、唯一の楽しみが週一度の語学学校であったのか。多くの南ベトナム人がそれぞれの事情で国を逃れた。Titan一家が国を脱出せざるを得なかったのは、父親が政府のそれなりの地位にあつたためかと想像する。それでもTitanが家族揃ってマルセイユに住めることは幸せであろう。かつてのサイゴンの生活からマルセイユの生活への変化は彼女にとっては極めて厳しい現実であつたに違いない。

ある日、彼女に「ベトナムレストランを教えてください」と頼んだことがあつた。依頼に応じて、Titanが授業後、旧港近くのベトナム料理店まで案内してくれた。生憎その日、レストラ

ンは休業であったため、そのまま彼女を地下鉄の駅まで送って別れた。翌週の授業に現れた彼女に案内してくれたお礼としてチョコレートの小箱を手渡した。思いもかけなかったようで、「何故？」と言いながら大げさに驚き喜んでくれた様子が印象に残っている。

語学学校が夏休みに入る前、「いつ日本に帰るの」と訊ねるから「9月の終わり」と答えると、涙眼で「あなたは帰る所があっというわね、私には帰る所がないわ」と。彼女の嘆きに対し自分のフランス語では気の利いた慰めも言えず黙って Titan の顔を見つめて、彼女のこれからの幸運を祈るしかなかった。やがて、学校は夏休みに入り、Titan と連絡をとることもなく、そのままとなった。

若い彼女には全く責任のないことではあるが、国の指導者が政策を誤ったため国民が不幸に陥った。Titan に較べて自分の平穏な境遇に深く感謝。後に観光で Titan のかつての故郷ホーチミン市を訪ねた折、ベトナム人ガイドの話に、ベトナムへ資本主義が浸透し急速に発展中ではあるが、多大の犠牲を払った独立だけに、一気に社会主義を捨てて資本主義に戻る訳にはいかない、とのニュアンスを感じた。

かつて教室で共に学んだカンボジア人学生は帰国していれば国で起こった悲惨な虐殺にあわなかったか。Titan は既に還暦に近いが、一度でも故郷を訪れたのか。今では陽気で穏やかなお婆さんになって孫たちと幸せに暮らしている、と思いたい。



1978年10月、マルセイユ旧港

#### 筆者紹介

最終学歴：東北大学大学院農学研究科水産学専攻博士課程修了（1969年8月）

現職：なし。広島大学名誉教授

専門：水産増殖学、養魚飼養学